『あたらしい皮膚科学：第 3 版』のトップページへ



の自覚症状のない毛孔性丘疹．毛孔性角化や臍窩様の外観を呈することがある．多発性脂腺嚢腫（前項参照）の合併例や嚢腫壁に脂腺構造を伴う場合もあるため，両者は関連性があると示唆される．

## 7. 毛巣洞（もうそうどう）　pilonidal sinus ★

**同義語：毛巣嚢腫**（pilonidal cyst），**毛巣瘻**（ろう），**毛巣病**

機械的に毛の先端が皮内に刺さり，その部位で肉芽組織や，毛包とみられる扁平上皮に囲まれた瘻孔を形成する．感染を繰り返しながら増大傾向を示す．殿部に多毛傾向のある若い男性の仙骨部に好発．後頭部や眼瞼，外陰部，腋窩，臍部，指趾間などにも生じうる．指間に生じるものは，理容師などの職業性に生じるものが多い．瘢痕組織を含めて十分に切除する（**図 21.31**）．

## 8. 鰓性嚢胞（さいせい）　branchial cyst

耳前部から頸部にみられる類表皮嚢腫様の皮下結節．鰓裂の遺残によって生じるため，嚢腫底部の可動性は悪く，深部に索状物を触知する．安易な切除はすべきではなく，頭頸部外科へのコンサルトを要する．甲状舌管の遺残によって生じたものを甲状舌管嚢胞（thyroglossal duct cyst）ないし正中頸嚢胞（median cervical cyst）と呼ぶ．

## 9. 中央縫線嚢胞　median raphe cyst

若い男性の陰茎縫線に沿って生じる直径数 mm 大の嚢胞（**図 21.32**）で，尿道口唇部で単発する例が多い．なかには数 cm になるものもある．陰嚢や会陰に生じることもある．病理組織学的には，尿道の移行上皮に類似した 1 層ないし数層の，円柱上皮ないし立方上皮からなる嚢腫壁をもつ．

## 10. 耳介偽嚢腫　pseudocyst of the auricle

耳介上半部の軟骨内に波動を触れる緊満性の嚢腫が片側性に生じる．発赤，疼痛などの炎症症状はほとんどない．レスリング選手やアトピー性皮膚炎患者など，耳介に慢性刺激を加える者に好発する．耳介の軟骨内に，上皮成分を伴わない液体貯留（仮性嚢胞）を生じる．穿刺後圧迫固定やステロイド局注などで治療するが，難治性である．

**図 21.30　多発性脂腺嚢腫**（steatocystoma multiplex）
前腕，腋窩に多発する 5 ～ 10 mm 大までの皮内嚢腫．

**図 21.31　毛巣洞**（pilonidal sinus）
仙骨部の毛巣洞瘻孔の開口部．

**図 21.32　中央縫線嚢胞**（median raphe cyst）